

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

獨協医科大学腫瘍外科上部消化管外科での研修を終えて

宮崎大学医学部外科学講座

落合 貴裕

この度、2023年度日本臨床外科学会の国内外科研修制度により2023年9月4日から9月29日までの4週間、獨協医科大学上部消化管外科で研修をさせて頂く機会を頂戴いたしましたので、ご報告させていただきます。

この制度については昨年認識し、是非今年には自分に行かせて頂きたいと希望を出しておりました。自分は医師9年目ですが、これまでは上部消化管のみでなく下部消化管や内視鏡、ERCPなど一般外科として働いてきましたが、腹腔鏡下手術の経験が乏しい状況でした。腹腔鏡下胃切除術に関しても執刀は数例であり、医師8年目の年に宮崎大学医学部附属病院へ異動後より症例を重ねておりました。その中で、2022年より獨協医科大学上部消化管外科教授の小嶋一幸先生にビデオクリニックでご指導して頂いており、これまでと比較して解剖の理解や手技の面で向上したため、小嶋先生の下でさらに胃切除術を学びたいと考え獨協医科大学を希望しました。研修期間中は主に手術見学を中心に研修しました。月曜日・火曜日・水曜日が上部消化管外科の手術日であり、木曜日・金曜日は上部消化管外科の手術がなかったため、これまでの手術動画や下部消化管外科の手術を拝見しました。

獨協医科大学では胃切除に関してロボット支援下手術が主に行われており、ロボット支援下手術の経験に乏しい自分にはとても刺激的でした。ダビンチファーストアシスタントプログラムにも参加して助手の資格も取得し、たくさん手術に入らせてもらいました。別日にはダビンチトレーニングにも参加して、実際に動物の胆嚢を用いて術者として胆嚢摘出術を行わせて頂き、こんなにもダビンチに触れる機会を頂けるとも思っていませんでしたので、今後、当院上部消化管外科でロボット支援下手術を導入する際に、生かしていければと思います。また、自分よりも若い先生方が1人で助手に入り、ロボット手術をたくさん経験している姿には羨ましさや焦りなどを感じました。腹腔鏡下手術に関しては症例が少なかったものの、空いた時間に視野展開の方法や手順に関して、当院でのLDGを含めた胃切除の定型化に向けて手術動画を含めて質問させて頂きました。獨協医科大学の上部消化管外科の先生方には病棟業務が忙しい中でも優しく対応して頂き、とても感謝しています。また、胃癌手術の他にも食道癌手術に入らせて頂きました。当院では主に後縦郭経路で再建を行いますが、獨協医科大学では現在胸骨後経路で再建が行われており、再建経路の違いや食道胃接合部癌の際の胸腔内吻合など、自分が経験していない症例・手技を直に経験することができました。頸部郭清もさせて頂きましたが、正直とても緊張しましたし、こういった場でも自分の力が発揮できるように日々の手術に取り組みないといけないと感じました。胃管作成に関してもこれまで開腹下に行っていましたが、獨協医科大学の自分と同期の先生が腹腔鏡下に胃管作成を行っている姿には、いい刺激をもらいました。

今まで、県外の病院を見学するということがありませんでしたので、近い学年の先生方の仕事など、これまでとても興味がありました。獨協医科大学は化学療法や内視鏡検査まですべて自分たちで行っており、患者の数も多く多忙の中で互いに連携をとって病棟業務、検査、手術に動いている姿は見習わなれないと感じました。

また、何よりも小嶋先生の手術を直に見ることができたことはとてもいい勉強になりました。加えて、韓国で開催されたKINGCA WEEK 2023や勉強会にも多く同行させて頂きました。国際学会への参加の

話を聞いた際には大変驚きましたが、なかなか経験できるものではないので参加させてもらいました。国際学会は初めてのことで教授にもご迷惑をおかけしてしまいましたが、この4週間で想像以上の経験をすることができて、大変感謝しております。

今回の獨協医科大学上部消化管外科での国内外科研修は、本当に有意義なものとなりました。研修で学んだことを日々の診療に活かせるように、より一層努力していきたいと思います。このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会、国内外科研修委員会、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、研修を快諾頂き、貴重な経験をさせて頂いた獨協医科大学上部消化管外科の小嶋一幸教授、研修期間中に温かくご指導、ご対応を頂いた上部消化管グループの先生方をはじめ、医局の方々に感謝を申し上げます。今回、研修の機会を与えていただき、推薦してくださいました宮崎大学外科学講座の七島篤志教授、古川貢之教授をはじめ、研修に送り出してくださいました同講座医局の先生方にもこの場を借りて感謝申し上げます。